

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472900113		
法人名	医療法人 豊和会		
事業所名	グループホーム やまもも		
所在地	三重県志摩市阿児町国府1061-153		
自己評価作成日	平成 26年 2月 14日	評価結果市町提出日	平成26年4月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigvosvoCd=2472900113-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 3 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体に病院がある為、常に医師との連絡が取れるようになっており、2週間に1回訪問診療を行っています。また、併設に老人保健施設があり重度化し場合の連携体制をとっています。ホームの前には畑があり、年2回地域の方々に手伝っていただきながら、季節の野菜を植え収穫を楽しんでいます。個々に認知症の症状が異なるため、個別気づきノートを作成し、個々に合わせたケアを心がけ、1日1日楽しく笑顔で過ごして頂けるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大きな医療法人の中の一つの事業所であり、すぐ隣の老健施設や近隣の病院とは連携を密に取っているため、利用者・家族にとっても安心できる体制である。理念の「ゆったりとした…」を念頭に、一人ひとりに合った支援になるようホーム長はじめ職員みんなで取り組んでいる。事業所前の畑では玉葱が植えられており、畑の周りは、水仙の花が開いている。四季折々の野菜や花が植えられており、その収穫も利用者の楽しみの一つになっている。訪問当日、利用されている方々の笑顔を拝見し、また笑い声を聞きホーム内での生活も、楽しく穏やかに送ってられるように感じた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	廊下・玄関に理念を掲げ、常に意識が持てるようにしている。また、月1の会議では、理念に沿ったケアが出来るように話している。	理念の中の「ゆったりとした・・・」という言葉を大切にしており、ケアの仕事を済ませるのを優先するのではなく利用者の生活が先と、会議の時やその都度「ゆっくりしてください」と職員に声かけしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、老友会主催のカラオケクラブへの参加、小学校の運動会に参加させて頂いている。	近隣とは散歩時の挨拶ではじまる。自治会や老人会には加入はしていないが情報はいただいております。カラオケその他催し物には参加している。小学生や空手道場の子どもたちとの交流や、事業所前の畑を手伝ってもらえるボランティアとの連携もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市主催の研修会や運営推進会議等で、相談されることがあるので、これまでの経験を活かし話させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況、ホームの現状等を報告し様々な視点からの意見を頂きサービス向上に努めている。	2ヶ月毎に開催できており、利用者の現状、事業所の活動結果や今後の予定等を報告しており、参加者から意見もいただいている。開催日時や会議テーマに苦慮する場合もあり、今後の課題にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず出席していただき、意見や情報交換を行っている。また、市主催の研修会にも必ず参加し交流を図っている。	市役所へは法人の事務局が行くのではなく、管理者自らが出向き、連携を強めている。研修情報だけでなく一般情報も入っているし、施設見学の依頼を受けることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵をかけることへの弊害、身体拘束をすることにより認知症症状が悪化することを理解している。これまでは、身体拘束の事例はない。	現在利用者も安定されており、玄関や非常口も施錠していない。管理者はじめ職員は、常に拘束について意識しており、ベットと壁との距離の取りかたも、利用者一人ひとりを考えながら検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年1度、市主催の研修会に参加している。また、会議等で常に話し合い意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名利用されている方がいる為、職員は理解できている。また、年1度の市主催の研修にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談員、管理者、家族が十分話し合い納得したうえで契約して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の便りで、1か月の様子を報告し面会時には必ず意見や要望を聴くようにしている。また、意見箱の設置、隣接の老健施設でも相談を受けれるようにしている。	家族会はないが毎年利用者アンケートで意見を聞いているし、催し物にいられたときや面会時にしっかり意見交換している。写真一杯の毎月のたよりに、利用者の状況を手書きで知らせしており、家族との信頼関係を強くしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で意見交換をしており、申し送りノートを活用し、意見や提案を常に出来るようにしている。また、個々に聴くように心がけている。	日頃は、日常の仕事の中で話を聞いたり、申し送りノートを活用し、意見の吸い上げをしている。また、毎月1回、全職員でケア及び運営に関する会議を行っている。「職員を増やしてほしい」の意見が出たりして活発である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課があり、各個人の能力が丘陵に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に、経験年数を踏まえ参加している。また、研修報告書を閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護サービス事業所連絡協議会に参加し、意見交換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前には、必ずご本人様と面談を行い話をするようにして、生活状態を把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族とも面談を行い要望、困っていることを聞き取るようにしている。入居後も同様に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員、家族と共に話し合い利用者にあったサービス提供が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側と区別せずに、共に支えあえる関係作りに努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回の便りで近況報告をし、面会時にも生活状況等を話し、本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで住み慣れた場所へ出かけたり、以前の利用者様のところへ面会に行ったりしている。	隣の豊和苑から移ってきた利用者が多く、そのときの友達に逢いに出かけたりするし、昔住んでいた家まで車で見に行くこともある。また、馴染みの喫茶店へ家族と出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員全員が利用者同士の関係を把握しており、みんなで楽しく過ごす時間を作ったり、気の合う者同士過ごす時間を作ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合は定期的に面会に行き、他施設へ転所された方は折をみて会いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係りの中で耳を傾け、思いをくみ取り、面会時には家族へも確認している。また、強要しないように注意している。	テレビを見ているとき、その場面場面で話をし、思っていることを聞き出したりしているし、お風呂の中でも話に耳を傾けている。聞き出したことは「個別気づきノート」に記入し、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に協力して頂き、生活調査歴を記入してもらい、サービスの利用に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることに注目し、本人の生活・全体像を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	原則3か月の見直しではあるが、月1回の会議で今現在困っていることは何か職員間で話し合い介護計画を作成している。	介護カルテや個別気づきノートを参考に、毎月の会議で特に「現在困っていること」を重点に話し合い、家族意見も入れ、介護計画を作り上げている。3ヶ月毎の見直しが基本ではあるが、急変時は随時変更する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護カルテに記入するとともに、個々の気づきノートを作成し職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助、外出等は本人・家族の希望を取り入れ柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で情報を頂き、地区の民生委員・老友会の方々にお世話になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医を確認している。継続される場合は家族に協力して頂いている。困難な場合は、系列の豊和病院へ依頼し、2週間毎に訪問診療して頂いている。	利用者全員が系列の豊和病院の先生をかかりつけ医としている。病院にない眼科・耳鼻科・皮膚科等への通院・受診は家族が行い、薬は事業所が預かり管理している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置している。24時間連絡がとれる体制になっている。緊急時には直ぐに駆けつけられる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に訪問し、情報提供や地域連携室と相談するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の指針」について説明し、事業所で出来るケアについて説明している。家族が納得した看取りが今年度もできた。	重度化指針もあり、家族にも話している。既に3件の看取り経験があるが、一人ひとりが違う条件であり、経験の積み重ねが大切と、管理者・職員共に気を引き締めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、周知徹底している。研修にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を隣接の志摩豊和苑と合同で行っており、うち1回は夜間対応としている。また、不定期で職員のみで防災について訓練及びシミュレーションを行っている。	消防署立会いの下で、年2回隣の豊和苑と合同訓練を行っている。また、ほぼ毎月1回、職員のみではあるが、防災担当の職員が計画した防災に関する訓練をしている。	大規模地震が近い将来、高い確率で想定されている。特に夜間当直1人しかいないという最悪条件での訓練が大切で、その時職員がパニックにならないように訓練をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄の声掛けは他の方にはわからないように職員間で話し合い徹底している。	特に共用の場でのトイレ誘導の声かけには気を配っており、他の人にはわからないように「ちょっと来て・・・」というようにしているし、同様に入浴についても気配りしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりした口調で会話をするよう心掛け、職員は決定的な言葉を使用せずに質問形式で選択できるような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本業務マニュアルはあるが、入居者様の状況に応じて時間変更をしたりと柔軟な対応になるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は見守り、出来ない方は職員が手伝っている。2か月の訪問理容では好みのカットにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の茶わん・はし・湯呑を使用し、職員と一緒に食事をしている。野菜の皮むきや食器拭きなど出来る範囲で職員と一緒にしている。また、お誕生日には好きのものを用意させて頂いている。	隣の老健の栄養管理士作成の献立を基に、食材調達から調理まで全てを事業所内で行っているため、その日の希望で食べたいものにも変わることもある。クラシックのBGMの流れる中、職員・利用者一緒に話しを楽しみながら、同じものを食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接する老健施設の献立をもとに職員が調理し、個々に合わせた食事量、形態にしている。管理栄養士にアドバイスをいただいている。食事量を記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを徹底している。ご自分でできない方には、吸引ブラシを使用し清潔に努めている。週2回は義歯洗浄剤を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。可能な限りは布パンツへ移行している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、細かい気配りで支援しており、入居前はリハビリパンツだった人が布パンツに移行した実績が多数ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘の方には運動を取り入れたり、オリゴ糖の使用、水分補給をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回は入浴して頂いているが、希望者は毎日でも可能である。時間やタイミングは個々の入居者に沿って支援している。	毎日沸かしているため毎日の入浴が可能であるが、平均して2日に1回の入浴である。ゆず風呂や菖蒲湯など季節の楽しみもあり、入浴剤で色や香りを楽しむこともしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々生活環境を把握し、休息が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員全員がいつでもみれるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯たたみ、干しなど個々の力が発揮できるようお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の係りの中で、入居者様の希望を聞き、ドライブ等を計画している。天気の良い日は、ホーム周辺に散歩に出かけるようにしている。	天気の良い日は、事業所周辺の散歩や畑を見ながらの外気浴をしている。花見や観劇などは希望を聞きながら車でドライブに出かけているが、車椅子対応の大きな車がなく、少人数対応となっている。みんなで外出する機会が減っており、大きな課題として検討している。	現状は同一法人内の他事業所の車を利用しているが、事業所行事での外出だけでなく、万が一の災害時の避難にも、事業所が優先的に使用できる大型車は必要と考える。法人内の事情その他種々問題はあろうと思うがご検討をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、基本管理しているが、外出時は希望があれば本人に渡し管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室と食堂が同じフロアーになっているので、食事を作っている様子や鏡越しで職員と会話できるようになっている。また、季節を感じて頂くようにフロアーの飾りを工夫している。	食堂の横にキッチンがあり、対面式でないので食事作りをしている職員の背中が利用者の方からみえる。職員の前には大きな鏡があり、その鏡を通して利用者を見ることが出来るので、違和感なく職員と利用者の会話が成り立っている。食事やおやつ作りの臭いの中で、職員と一緒にゆっくり過ごせる場所である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室には、一人掛けの椅子、長椅子があり、思い思いの場所で自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具が揃っているに、本人が落ち着いて生活ができるように支援している。泊まりは自由にできる。	ほとんど丸一日、食堂や談話室で過ごされ、部屋に戻るのには寝るときだけにはあるが、部屋には大きなクローゼットに洗面台があり、テレビや鏡台、机、椅子、時計、花瓶など持ち込まれており、自分の部屋作りをされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態に応じて、適宜見直し本人が持っている能力が発揮できるようにしている。状況に合わせた環境整備をしている。		